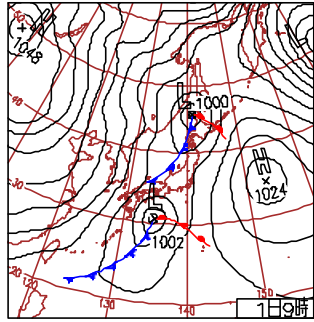


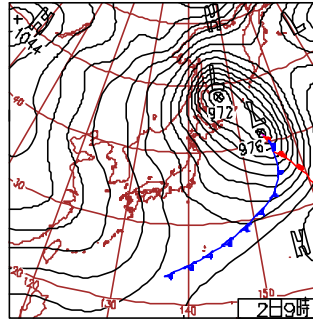
2002年 11月

- ・ 上旬、真冬並みの強い寒気が南下。気温は全国的にかなり低い。本州で記録的に早い初雪。
- ・ 12日～13日、全国で黄砂を観測。
- ・ 14日、北海道で今秋初の真冬日。
- ・ 24日、小笠原諸島は台風第25号の暴風域。
- ・ 27日、北海道・北陸で強風と高波。

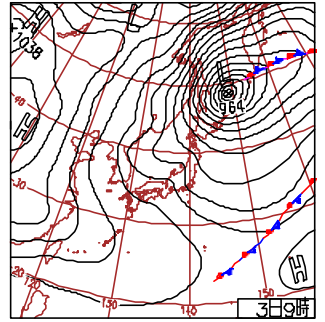
(気象庁予報部予報課)



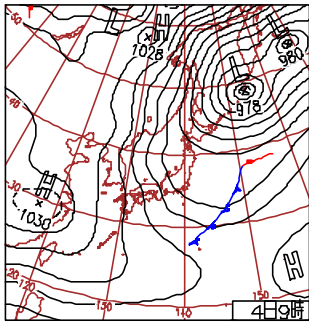
1日(金) 日本付近深い気圧の谷
発達中の低気圧が南海上と日本海北部を北東進、全国的に雨。八丈島で日雨量103mm。インド・デリーの気候変動枠組条約第8回締約国会議閉幕。発展途上国にもCO2削減促す。



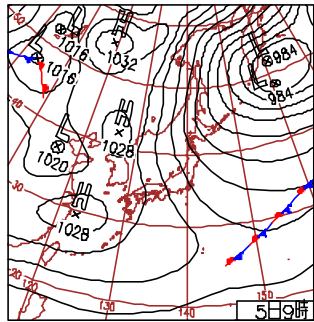
2日(土) 東京で木枯らし1号
低気圧発達し冬型の気圧配置。北海道は暴風雪で、釧路で最大瞬間風速27.8m/s、網走と根室地方に暴風警報。東京で最大瞬間風速・北西19.4m/s、昨年より4日早い木枯らし。



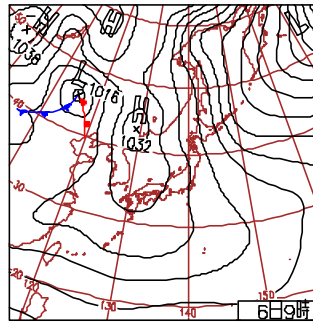
3日(日) 山陰で降りょう
冬型の気圧配置で強い寒気が流入。各地で平年より5度前後低い冷え込み。北陸以北の日本海側は暴風・雪・高波が続く。山陰で直径6～10mmのひょう。宮城県北部で震度5弱。



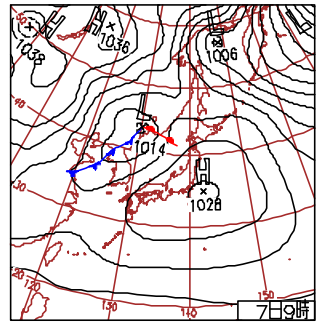
4日(月) 雪の北陸道で事故
冬型の気圧配置が続く、日本海側を中心に雨や雪。福井県内の北陸自動車道で約20台の玉突き事故、2人死亡、21人けが。震度5弱、今度は西日本で大分県など。



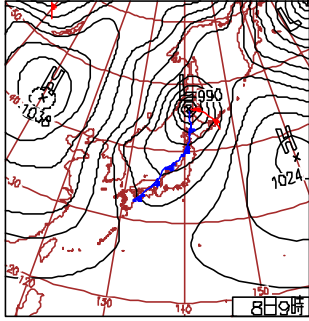
5日(火) 強い寒気居座る
真冬並みの強い寒気は北日本・東日本上空に居座る。太平洋側は晴天、日本海側は雨や雪。高田・金沢・福井で観測史上最も早い初雪。高知の初氷も平年より33日早く史上最早。



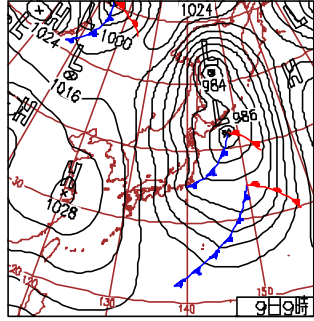
6日(水) 冬型の気圧配置ゆるむ
寒気の流入峠を越え冬型の気圧配置がゆるんだが、新潟県湯之谷村の積雪98cmに達す。日本付近次第に移動性高気圧の圏内。本州の日本海側でしぐれ残るが、そのほかは晴れ。



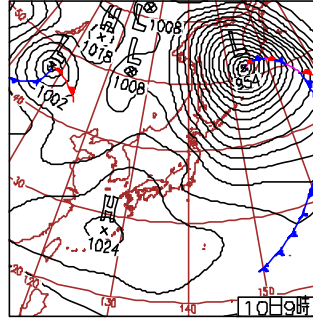
7日(木) 放射冷却現象
移動性高気圧に覆われ、明け方はほぼ全国的に晴れて放射冷却で冷え込む。各地で初霜・初氷を観測。鳥取は平年より24日早い初霜、富山は平年より19日、熊谷14日早い初氷。



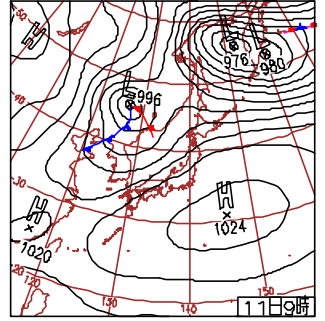
8日(金) 日本海低気圧
前日から24hPaも深まった低気圧が北海道を通してオホーツク海へ。日本海側を中心に曇りや雨で一部では雷雨。北日本は荒れた天気で、山形県飛鳥の最大風速は西南西21m/s。



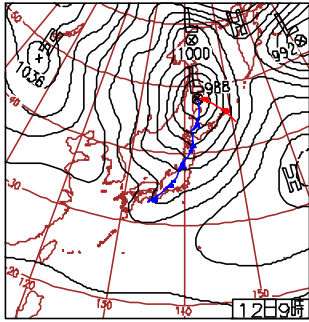
9日(土) 本州で記録的に早い初雪
真冬並の強い寒気が入り冬型の気圧配置。東北から山陰の16気象官署で初雪、5地点は30日以上早い。桜島は観測開始以来最早の初冠雪。福島県松枝村で積雪が1mを超えた。



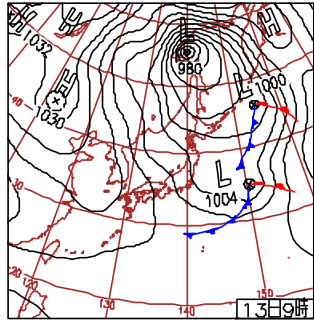
10日(日) 北日本は雪が続く
冬型の気圧配置は東・西日本ではゆるんだが、北日本は雪が続き各地で通行止め。青森県酸ヶ湯で-9.7と平年より9度近く低い厳しい冷え込み。横浜では平年より32日早い初氷。



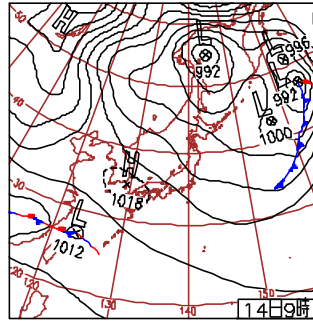
11日(月) 西日本寒さやわらく
南海上に中心を持つ高気圧に覆われ、北日本を除いて概ね晴れ、西日本は南よりの風で寒さやわらぐが、気圧の谷の接近で九州から雨に。米国東・南部で竜巻多発、30名以上死亡。



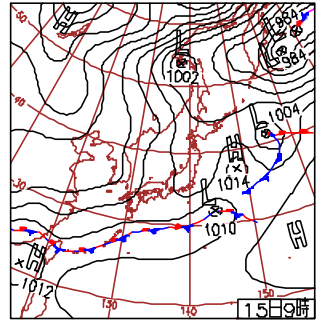
12日(火) 秋の黄砂
北海道の北を通過中の低気圧から前線が日本列島を縦断、所々で雷を伴った雨。天気のリフトとともに九州から北海道にかけ、関東を除く78地点で秋としては6年ぶりに黄砂を観測。



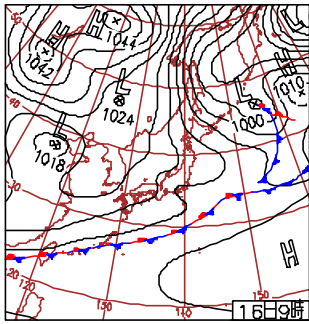
13日(水) 北日本に真冬の寒波
北海道上空5400mに40以下の寒気、冬型の気圧配置強まる。北日本の山間部で30～50cmの大雪。日中は全国的に11月下旬～12月上旬の寒さ。前日に続き14地点で黄砂を観測。



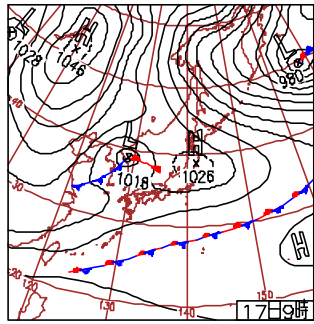
14日(木) 今秋初めての真冬日
強い寒気が続き、気象官署の観測では今秋初の真冬日、最高気温は倶知安-3.0、旭川-2.4。東京はイチョウ黄葉。南極観測船「しらせ」が観測隊員より一足早く出港。



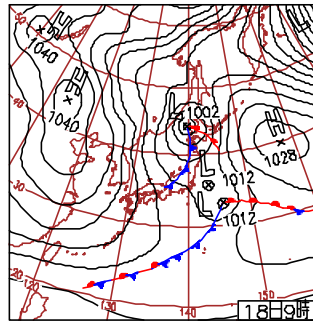
15日(金) ちょっと寒い七五三
北日本は気圧の谷、雪やみぞれで冷え込み十勝支庁陸別町で最低気温-12.3。本州各地も曇りや雨で、最高気温が平年より5度以上低い所も。神戸でイチョウ落葉の最早記録。



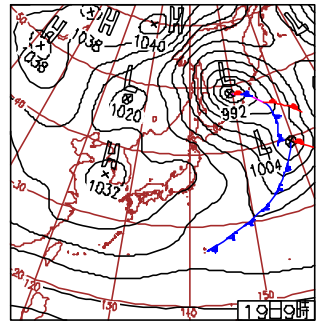
16日(土)北日本12月の寒さ続く
オホーツク海に寒気が居座り、北海道上空5400mに-40以下の寒気。日本海側は北陸まで雪や雨、寒さ続く。一方、本州南海上に前線が東西に延び、太平洋側を中心に曇り。



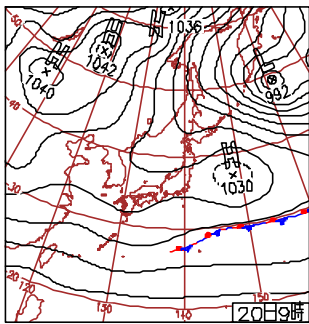
17日(日)移動性高気圧
移動性高気圧に覆われ、広い範囲で晴れ。しかし北東風の関東南部と前線に近い南西諸島は曇り。気温はまだ全国的に低めで、関東は12月中旬並み。



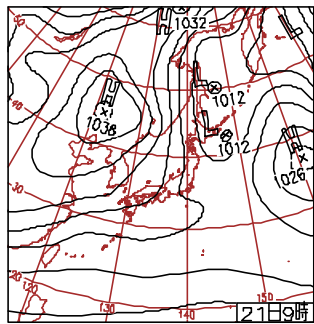
18日(月)寒暖の差
低気圧が日本海を北東進。寒冷前線の通過後、西日本は急速に気温低下、長崎県厳原で平年より20日早い初雪。東・北日本は南寄りの風で日中の寒さが緩み、小春日和の所も。



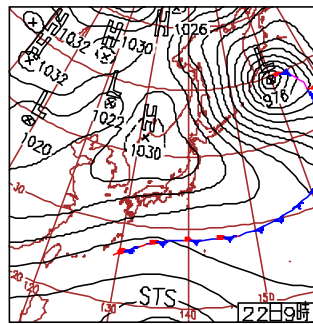
19日(火)西日本寒い朝
北海道は低気圧の影響で雪。東北から西は高気圧に覆われ概ね晴れたが、最低気温は西日本で平年より5度前後低め。福岡初氷は平年より26日早い。金沢でイチヨウ落葉の最早記録。



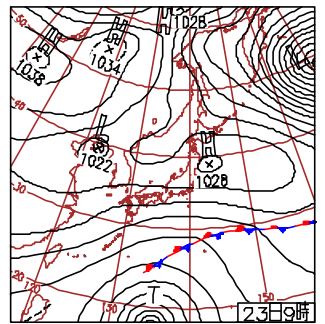
20日(水)すっきりしない空模様
弱い気圧の谷に入り、東・西日本は曇り空。北日本は雨・みぞれ・雪、秋田で直径8mmの降ひょう。東京でイロハカエデ紅葉。



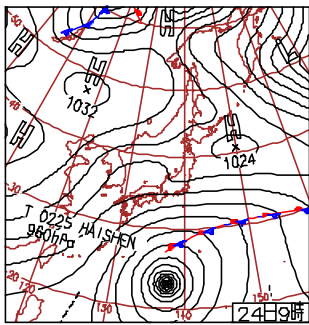
21日(木)台風第25号発生
気圧の谷が通過し、北日本は冬型の気圧配置。北海道は雪で小樽市22cmの降雪。北陸や東北、西日本、南西諸島も所々で雨。そのほか全般に曇り。マリアナ諸島で台風発生。



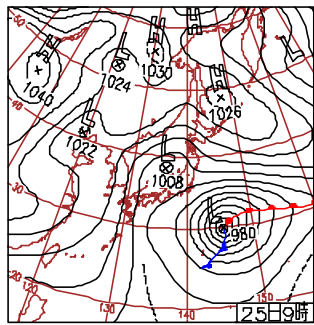
22日(金)日中の気温上がらず
高気圧に覆われ晴れた所が多いが、関東や四国・九州の太平洋側は終日曇り。気温は東・北日本で特に低く、関東は日中10以下。東京の最高気温は日付の変った深夜に記録。



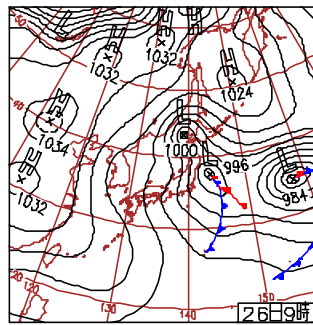
23日(土)南岸ぐずついた天気
高気圧に覆われ広い範囲で晴れたが、北海道は気圧の谷の影響で所々雪。関東から近畿の太平洋側も前線の影響で曇りや小雨、真冬並みの肌寒さ。山茶花が冷たい雨に濡れる。



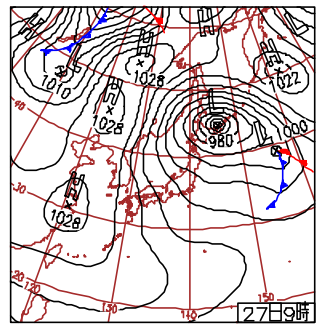
24日(日)小笠原諸島暴風域
台風第25号は沖の鳥島近海を北北東に進み、小笠原諸島は夜に暴風域に。南海上の前線の影響で本州太平洋側は曇りや弱い雨、そのほかは高気圧に覆われ概ね晴れ。まだ気温低め。



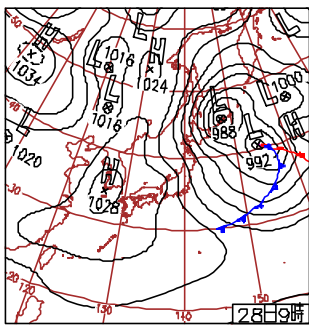
25日(月)東北でまとまった雨
日本付近は気圧の谷。九州・南西諸島で晴れたほかは曇りや雨。東北地方太平洋側で日雨量70mmを超える。気温ようやく平年並み。台風第25号は父島の北で温带低気圧に。



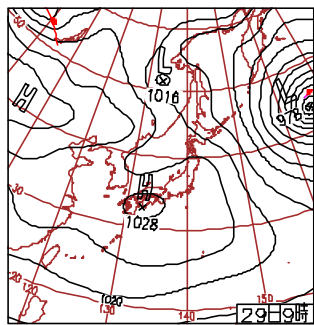
26日(火)神奈川で降ひょう
発達中の低気圧の影響で北日本と本州日本海側で雨続く。東・北日本は平年並みの気温だが、西日本はもう次の寒気が流入し気温低め。神奈川県では局地的に雷雨、降ひょう。



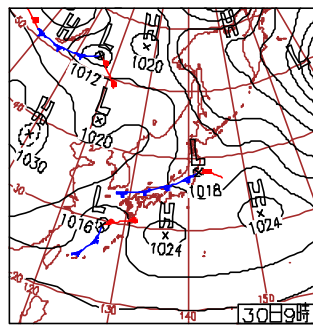
27日(水)各地で強風と高波
オホーツク海で低気圧発達、本州は冬型の気圧配置。北海道では風が強く、根室で最大瞬間風速30.9m/s、北海道東部に波浪警報。北陸でも強風と雷雨、金沢で最大瞬間風速30.6m/s。



28日(木)冬型ゆるみ始める
北日本中心の冬型の気圧配置も次第にゆるむ。気温は平年並かやや低め。北海道のオホーツク海側と日本海側で雪やみぞれ。関東以西では小春日和。第44次南極観測隊が空路出発。



29日(金)北海道で山がけ崩れ
移動性高気圧に覆われ全国的に晴れ。冷え込んだ岐阜・尾鷲・福江で初氷。気圧の谷の影響で北日本は曇りや雨。北海道留萌市で住家1棟の一部が土砂により崩壊。



30日(土)非常に激しい雨
本州上に寒冷前線がかかり、東シナ海からは低気圧が東進。雨域は九州・四国から次第に東へ広がる。鹿児島県屋久島で1時間雨量71.5mm、日雨量121.5mmの大雨。